

各 位

会 社 名 フューチャー株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証プライム)
問 合 せ 先 ファイナンシャル&アカウンティンググループ
執行役員 松下 恭和
(TEL (03) 5740 - 5724)

2025 年 12 月期第 2 四半期（中間期）連結業績（累計）のお知らせ

1. 2025 年 12 月期第 2 四半期（中間期）連結業績（累計）について

当社グループの当中間期連結会計年度（2025 年 1 月 1 日～2025 年 6 月 30 日）の連結業績は、

売上高	35,645 百万円（前年同期比 8.2%増）
営業利益	7,108 百万円（前年同期比 3.0%増）
親会社株主に帰属する中間純利益	4,571 百万円（前年同期比 6.0%減）

となりました。

当中間連結会計期間における経済環境を見ると、ウクライナや中東における紛争、米国トランプ政権による保護主義的な貿易政策等により世界経済の不確実性は増しております。また、国内の物価及び金利は上昇傾向にあります。

こうした経済環境下でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）による業務改革、生産性の向上による深刻な人手不足への対応、国際情勢を踏まえたBCP（事業継続計画）の観点からの企業全体のサプライチェーンの見直し等、ITを通じた経営改革や業務改善の動きは引き続き旺盛であり、活発なIT投資が続いています。また、AI（生成AIを含む）を活用した新たなデジタルサービスの開発や業務効率化の動きも加速しています。

このような状況のもと当社グループは、フューチャーアーキテクト株式会社において、金融機関向け勘定系システムである「次世代バンキングシステム」を、昨年に移働開始した1行目に続き、本年7月に2行目の安定稼働を開始させました。また、導入3行目のグランドデザインのフェーズが順調に進捗していることに加えて、4・5行目の新規導入が決定したことから、プロジェクトを開始いたしました。その他にも、第2四半期より政府系の大型公共案件や複数の大規模プロジェクトが開始し、順調に進捗しています。これらに加えて、前期第2四半期から損益を連結した株式会社リヴァンプの業績が当期において通期寄与することなどから、売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益となりました。一方、親会社株主に帰属する中間純利益は、投資有価証券評価損を計上したほか、防衛特別法人税の影響を反映したことなどから前年同期比で減益となりました。

各セグメントの業績（売上高・営業利益）については以下のとおりです。

（1）ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）では、政府が主導する医療DXに関連するシステム構築のプロジェクトのほか、小売業、食品卸、金融等様々な業界のDXに関する大規模プロジェクトが立ちあがり、順調に進捗しております。

当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、「次世代バンキングシステム」の2行目を7月に安定稼働を開始させたほか、3行目のグランドデザインのフェーズが順調に進捗し、更に、導入が決定した4・5行目のプロジェクトも開始いたしました。

また、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「Future Apparel」導入の大型プロジェクトにおける設計フェーズが順調に進捗しております。これらの結果、前年同期比で売上高は増収、営業利益は、第1四半期に大規模プロジェクト獲得のために営業活動に注力した影響から、前年同期比でほぼ横ばいとなりました。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が引き続き好調に推移したものの、大型の開発案件がピークアウトした影響により、前年同期比で減収減益となりました。

Future One株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「Infini One」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大に加え、付加価値の提案による既存顧客からの受注が拡大し、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーアーティザン株式会社は、PLM事業への本格参入による新規大型案件の獲得や、DXコンサルティング案件の価値訴求が売上に寄与したものの、プロジェクトの受注が計画を下回ったことに加え、グループ間の事業移管の影響及びソフトウェアの償却負担の増加などから、前年同期比で減収減益となりました。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、セキュリティサービスを中心に新規受注が拡大したことに加え、既存顧客の運用サービスやセキュリティ関連商材の保守更新等の案件が順調に進捗したことにより、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社リヴァンプは、プライベートエクイティファンドや経営者の実務を支援する経営マーケティング事業及び基幹システム刷新や全社構造改革のコンサルティングを行うDX事業がともに計画を上回りました。加えて、経営マーケティング事業において、支援先の企業価値向上に伴う成功報酬売上を計上しました。同社は前第2四半期連結会計期間から新規に損益を連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与します。

この結果、本セグメントの売上高は31,782百万円（前年同期比11.8%増）、営業利益は7,265百万円（同8.1%増）と増収増益となりました。

（2）ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、プライベートブランドの収益性や粗利率は向上しているものの、ナショナルブランドを中心に売上が伸び悩み、前年同期比で減収減益となりました。

東京カレンダー株式会社は、コンテンツ事業における広告売上や積極的なイベント開催による収益に加え、「東カレデート」等のネットサービスによる収益が好調に推移したことにより、前年同期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、会員管理・ECパッケージ「Fast Biz」を導入しているスポーツチーム及びエンターテインメントや小売業など既存顧客のシステム投資案件が計画通りに進捗したものの、新規事業の立ち上げに時間を要した結果、前年同期比で減収となった一方、各種販管費を抑制したことなどから増益となりました。

株式会社キュリオシティは、腕時計などの海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗しているものの、前第2四半期に完了したジュエリーブランドの複数の大型ストアデザインが当期はないことから、反動減により減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は3,873百万円（前年同期比14.6%減）、営業損失は△67百万円（前年同期は営業利益245百万円）となり、前年同期比で減収減益となりました。

2. 今後について

（1）グループ戦略について

中長期的な事業環境においては、企業のDXの取組みは今後も続くことが見込まれるほか、深刻な人手不足を補うための抜本的な経営改革による業務効率化、ESG・SDGsなどの経済・社会的な課題への対応の要請もあり、企業の積極的なIT投資は続くものと予想されます。

当社グループとしましては、ITを通じて経営改革を進める企業のニーズを的確に捉え、グループシナジーを発揮しながら多面的、積極的に支援することで、多種多様な顧客からの一層高い支持が得られるように努めてまいります。

また、ESG・SDGs関連の取組みにおいても自社の取組みを進めるとともに、環境対応や脱炭素化に向けた顧客の取組みを支援してまいります。

加えて、グループとしての知的財産の有効活用や、M&Aも含めた機動的な戦略投資を行うことで、ビジネスモデルの進化を図り、次期以降の更なる成長へとつなげるとともに、継続的な人材採用、教育、研究開発への投資といった将来の成長に資する事業基盤の整備を進めてまいります。

人材採用については、2026年度新卒採用で想定年収を引き上げることで採用競争力強化を行うとともに、2024年より開始しているバリュー採用（新卒であっても高度ITスキル・ビジネス知識を持つ人材に対しては能力に応じた報酬体系を提供）の報酬体系も引き上げます。また、社会人ドクター支援制度「Future PhD Support Program」の導入により社員の博士号取得を支援し、AIなどの先端領域で働きながら研究・修学できる環境を提供して先端技術人材育成を加速します。

併せて、グループ内のコミュニケーション強化、品質管理精度の更なる向上等、グループガバナンスの強化を実施してまいります。

各セグメントの特記事項は次のとおりです。

（2）ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社においては、グループ各社との協業をより一層推進し、経営・ITコンサルティングを通じて顧客の経営課題に伴走して取組む体制を強化しました。これにより、経営改革を図る顧客からのグランドデザイン及びDXの推進を意識した、基幹システム刷新、データ基盤の構築等の新規案件を受注しました。グループ会社との協業を通じて、強固なITセキュリティの構築、顧客企業における高度IT人材の育成・内製化支援など幅広い領域で顧客及び業界の課題解決に取り組みます。

中長期の成長戦略としては、「DX戦略パートナーシップの拡大」と、「知財展開モデルの確立」を実行してまいります。「DX戦略パートナーシップの拡大」により、お客様のDXパートナーとして、大規模システム開発に留まらず、DX戦略の策定・戦略の実行・お客様のIT組織及び人材強化を包括的に長期にわたり支援する協業基盤を構築いたします。「知財展開モデルの確立」においては、「次世代バンキングシステム」「Future BANK」「Glyph Feeds」「Future Apparel」等、当社の既存知財を展開することでライセンスとコンサルティング及びカスタマイズ開発によるハイブリッドな収益モデルで安定的な収益基盤を築くとともに、新規知財の戦略的開発を進めてまいります。

更に、人材の獲得や教育への投資、品質管理、プロジェクトマネジメントの強化に取り組むことで、これからの時代をリードする体制作りを行ってまいります。

フューチャーインスペース株式会社は、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件など、複数の大型プロジェクトの開発を安定的に進めるために、開発品質の更なる向上と、人材の採用及び育成を行い、着実に事業を拡大してまいります。

F u t u r e O n e 株式会社は、引き続き、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「I n f i n i O n e」の業界特化型の営業展開により受注を拡大するとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューションを顧客に提供することで収益の更なる拡大を目指します。

フューチャーアーティザン株式会社は、製造業向けDXコンサルティングと「S m a r t F a c t o r y」構築に加え、基幹システム刷新及び業務改革の支援サービスやPLM事業の製品企画から製造にわたる一連のサービスを提供し、ビジネスの拡大を狙います。また、E S G マネジメントプラットフォーム「K k u o n (ケークオン)」を軸とした「E S G 経営共創サービス」の貢献、基幹製品である「YDC S O N A R」のパートナー拡販により、収益の更なる拡大を目指してまいります。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、危機管理対応とセキュリティ診断サービスはもとより、運用も含めたセキュリティライフサイクルに対応したソリューションを提供します。更に、セキュリティサービス分野でフューチャーグループ各社と連携し、収益拡大を目指してまいります。

株式会社リヴァンプは、経営マーケティング事業における既存案件の着実な遂行に加え、DX事業における既存顧客のグローバル展開支援を中心とした案件の拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓していきます。また、引き続き、両事業においてフューチャーグループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件の創出、品質の向上など、シナジーの早期実現を図ります。

(3) ビジネスイノベーション事業

株式会社Y O C A B I T O は、プライベートブランド強化による新商品及びリニューアル品を下期より順次投入して収益改善を図るとともに、不採算商品の処分やコスト削減を進め、業績改善に努めてまいります。

東京カレンダー株式会社は、各種マーケティングデータの分析結果に基づき、様々な媒体面やイベント、ネットサービスなど、ユーザー接点毎にコンテンツ最適化を図り、ブランド力とユーザーエンゲージメントの更なる向上を目指してまいります。またAI等のテクノロジーを活用し、当社サービスの利便性や業務生産性の向上に努めることで、各事業の更なる成長と収益拡大を目指してまいります。

ライブリッツ株式会社は、プロ野球にて培ったデータ分析技術やファンマーケティングの手法を体系化して、野球以外の競技はもとより一次産業及びエンターテインメント業界へと展開し、DXを活用した顧客リレーションシップの進化を実現するとともに、更なる成長と収益拡大を進めてまいります。

株式会社キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインの事業に注力するほか、世界的なブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注してまいります。併せて、キュリオシティのデザイン哲学を理解・実践し、グローバルに対応できるデザイナーの採用・育成を進めてまいります。

以上

●本件に関する問い合わせ先：

フューチャー株式会社 ファイナンシャル&アカウンティンググループ 松下恭和

IR 直通 Tel : 03-5740-5724 電子メール : ir@future.co.jp